

OUR APPROACH

サプライチェーンマネジメント

素材価格高騰や長納期化への対応

2023年度は、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準までには正常化していないものの、各種部品・材料の長納期化の影響は、大きく緩和しました。一方で、原材料価格・エネルギー費用・輸送費・人件費等の高騰に伴う購入単価の上昇は、依然続いています。

そのような中、各工場・ユニットの生産管理部門と連携し、生産・出荷計画の状況を踏まえ、調達品の長納期化や価格上昇影響を最小化すべく、先行手配・代替品検討・在庫化や、お取引先との交渉強化等の対策を推進しています。また、輸送費高騰対策としては、早期出荷情報入手による関係部門との調整により最適輸送を構築し、費用の低減に取り組んでいます。

サステナブル調達の推進

明電グループでは、持続可能な社会の実現に貢献するため、お取引先とともにサステナブル調達を推進しています。明電グループ企業理念に基づいて定められた企業行動規程に基づき、全てのお取引先に明電グループのサステナビリティに関する取組みに準ずる活動の推進をお願いし、取引をさせていただいています。

全ての新規取引先には、取引開始時に「明電グループサステナブル調達ガイドライン」を提示し、周知・遵守をお願いしています。また、生産拠点である各事業所にて毎年実施している生産計画説明会において、調達基本方針を説明する他、カーボンニュートラルに向けた勉強会の実施や「サステナブル調達ガイドライン」遵守のためのお取引先への各種支援活動（コンプライアンス・人権/労働・安全衛生・環境・品質/安全性・情報セキュリティ・事業継続計画など）のご案内、お取引先による優良改善事例の発表と技術力アップに向けた情報共有・意見交換といったコミュニケーションに注力することなどを通じて、サプライチェーンの能力強化を図っています。



沼津地区
生産計画説明会

持続可能なサプライチェーンの構築

取引開始時にサステナビリティ活動及び環境保全活動への取組みに関する調査を実施するとともに、評価結果をスコアカードとして毎年発行する仕組みとしています。

評価を通じて、気候変動、生物多様性、環境管理、人権、労働環境などの社会課題に関する事業の実態把握及び高リスクサプライヤの特定に努め、必要に応じて現地の監査や活動推進の支援を展開しています。

1 エコアクション21の認証・登録の推進、支援

お取引先に対して、環境省が推奨する環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証・登録活動をサポートし、バリューチェーン全体で環境マネジメントシステムの普及、及び環境改善を目指しています。2023年度からは独立行政法人 中小企業基盤整備機構にご協力いただき、お取引先のCO₂排出量の見える化支援も開始しました。9年目となる2023年度時点で、エコアクション21の認証を取得したお取引先は累計137社となりました。

今後もこれらの活動により、バリューチェーン全体での環境マネジメントシステムの普及、及び環境改善とCO₂排出量削減につなげていきます。

2 環境監査の実施

お取引先への環境監査を実施し、実際の現場を確認しながら、化学物質、廃棄物などの法令遵守を確認・指導しています。監査の結果「不適合」となったお取引先には是正処置を要求し、フォローアップを行っています（2023年度実績：8社）。また環境マネジメントシステム（EMS）未取得のお取引先には、エコアクション21勉強会へ参加（グリーン化プログラム）いただいています。

3 各種セミナー等の開催

お取引先の製造現場での工程改善や情報セキュリティ対策などの提案・支援を通じて、能力アップを図っています。製品交流会では、現場作業の方との相互交流や意見交換を行っています。情報セキュリティの確認では、DX推進本部と協働し、適切な漏洩対策が取られているかの確認と指導を行います。また、安全衛生サポート事業を利用したお取引先の現場確認なども実施しています。



安全衛生サポート事業の様子



生まれ変わる変圧器事業 明電舎沼津事業所 国境を越えて ボトルネックを乗り越えろ

再生可能エネルギーの導入や電力の安定供給に向けた国内での設備投資拡大を受け、電力インフラを支える変圧器には、最盛期を思い起こさせるような旺盛な需要が戻ってきました。一時期の苦境を乗り越え、ボトルネックを解消するために海外拠点からの“助っ人”とも手を取り合いながら、高品質製品の生産能力向上に挑むストーリー。

「嬉しい悲鳴」フル稼働の生産現場 ボトルネック解消で生産能力向上へ

「既に2030年納入分の注文が来ている。まさに嬉しい悲鳴。」
バブル崩壊後、長らく苦境に立たされてきた沼津事業所の変圧器工場が今、大きく様変わりしています。将来にわたる電力需要増加予測と送配電網のレジリエンス強化の課題を背景に、過去数年にわたって横ばいで推移してきた受注高が、2022年度には2倍以上に急増し、2023年度、2024年度と更に右肩上がりで伸びる状況となっています。こうした外部環境の変化を好機と捉え、工場では生産能力向上に向けた施策の検討を矢継ぎ早に進めます。生産現場のレイアウトや自社での製作範囲を見直し、大形変圧器の生産キャパシティを段階的に引き上げ、旺盛な需要に応えていく予定です。同時に、限られた人員でやり繰りする設計業務も、図面のデータ化やAIの活用を押し進めていきます。

伊藤▶「作業のムダを無くす。お客様への最適設計の提案も進め、生産効率を高めた。」

インドからの応援者 公私両面のサポート体制も

国内製造業にとって共通の課題である、人財確保にも取り組んでいます。変圧器の製造で沼津との国際工程間分業を展開するインドの現地法人MEIDEN T&D (INDIA) LIMITEDから今春、従業員5人が業務応援として初めて派遣されました。いずれも熟練技能者で、彼らの真摯なものづくりに取り組む姿勢は沼津の現場に良い刺激を与えています。

異国の地での生活を支えるのは、同じインド出身の小野留汰さん。約20年前に来日し、語学堪能な彼女は日本側でのサポーターとして欠かせない存在です。

小野▶「言葉や宗教の違い、食事、医療面など、業務応援



明電舎 電力機器工場 変圧器ユニット 設計部
電気設計課

右 伊藤 泰久

2016年入社。変圧器の開発業務を経て、大形変圧器の電気設計及び設計業務関連システムの構築・運用業務に携わる。

明電舎 電力機器工場 変圧器ユニット 製造課

右 小野 留汰

2018年中途入社。海外現地法人の技術資料翻訳や事務全般、通訳としてインドからの応援者のサポートなどに従事する。

者にとって疑問や戸惑いは多い。私が架け橋となることで安心して働いてもらいながら、見えない部分までこだわる日本の技術を学び、自国での製造に役立ててほしい。」

今後も活況が続くとみられる変圧器事業。国境を越えた「チームMEIDEN」が織りなすダイバーシティは、電力インフラを支える製品に高い品質と競争力をもたらすとともに、多様な視点と技術力の融合によりイノベーションの核を形作ります。